

第 13 回

熊本県議会

国際スポーツ大会推進特別委員会会議記録

平成29年6月22日

開 会 中

場 所 第 1 委 員 会 室

第 13 回 熊本県議会 国際スポーツ大会推進特別委員会会議記録

平成29年6月22日（木曜日）

午前10時0分開議

午前11時34分閉会

本日の会議に付した事件

- (1) 2019女子ハンドボール世界選手権熊本開催に関する件
- (2) ラグビーワールドカップ2019熊本開催に関する件
- (3) 2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に関する件
- (4) 共通する事項
- (5) 付託調査事件の閉会中の継続審査について
- (6) その他

出席委員(15人)

委員長 池田和貴  
副委員長 高野洋介  
委員 氷室雄一郎  
委員 藤川隆夫  
委員 荒木章博  
委員 松田三郎  
委員 溝口幸治  
委員 西聖一  
委員 渕上陽一  
委員 橋口海平  
委員 楠本千秋  
委員 岩田智子  
委員 高島和男  
委員 大平雄一  
委員 吉田孝平

欠席委員(なし)

委員外議員(なし)

説明のため出席した者

商工観光労働部

部長 奥 菌 惣 幸

政策審議監兼

商工政策課長 中 川 誠

観光経済交流局長 原 山 明 博

観光物産課長 永 友 義 孝

国際課長 小 金 丸 健

国際スポーツ大会

推進局長 小 原 雅 晶

首席審議員兼国際

スポーツ大会推進課長 水 谷 孝 司

教育委員会

教育理事 山 本 國 雄

教育政策課長 江 藤 公 俊

体育保健課長 西 村 浩 二

総務部

首席審議員兼人事課長 平 井 宏 英

企画振興部

地域・文化振興局長兼

地域振興課長 芥 藤 浩 幸

文化企画・世界遺産

推進課長 手 島 伸 介

健康福祉部

障がい者支援課長 奥 山 晃 正

土木部

道路都市局長 宮 部 静 夫

都市計画課審議員 伊 東 貢

警察本部

警備第二課長 森 本 信 明

交通規制課長 瀬 河 清 信

事務局職員出席者

政務調査課主幹 福 島 哲 也

政務調査課主幹 佐 藤 誠

午前10時0分開会

○池田和貴委員長 ただいまから第13回国際スポーツ大会推進特別委員会を開催いたします。

本来であれば、執行部関係部局全てがそろ

った年度当初の委員会でございますので、自己紹介をしてスタートというところでございますが、今月10日に行われたラグビー日本代表国際テストマッチに特化する形で、一部の執行部を集めて先月の10日に第12回の委員会を開催しましたので、本日は出席名簿をごらんいただき紹介にかえさせていただきたいと思っております。

審議に入ります前に、商工観光労働部長から発言の申し出がっておりますので、発言をお願いいたします。

○奥菌商工観光労働部長 改めまして、一言御礼を申し上げます。

6月10日に行われましたラグビー国際テストマッチ日本代表対ルーマニア代表戦につきましては、池田委員長を初め委員の皆様方を中心とした県会議員の皆様、また県内外の多くの方々の御支援をいただきました。心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。

おかげさまをもちまして、天候にも恵まれてまして1万8,585名、多くの方々に観戦いただきまして試合を盛り上げていただきました。

これは、県内において行われたラグビーの試合で過去最高の入場者数でございます。熊本の熱い思いを、全国に発信できたと考えております。

また、日本代表の気迫あふれるプレーと勝利で、ラグビー観戦が初めての方にも、十分に魅力を感じていただけたのではないかと思います。今後に思っておるところでございます。

今回の盛り上がりやさまざまな反省点をしっかりと検証いたしまして、2年後のワールドカップ本番に生かしてまいります。

本日は、テストマッチの状況報告や、8月に開催されます女子ハンドボールプレ国際大会等につきまして、担当課長から説明させていただきますので、御審議のほどよろしく願いいたし

ます。

○池田和貴委員長 奥菌部長、どうもありがとうございました。そして大変お疲れさまでございました。部長を先頭に、本当に皆さん方頑張っていたというお話を、私どもも県民の多くの方からお伺いをしたところでございます。テストマッチが本当にいい結果になってくれて、よかったというふうに私も思っているところでございます。

委員の皆様におかれましても、チケットの購入を皆様方、御協力をいただきまして本当にありがとうございました。当初、県議会で300枚購入させていただきましたが、その後さらに皆様方から御注文いたしまして、最終的には640枚県議会のほうでチケット購入をしたところでございます。本当に、皆さん方の御協力、大変ありがとうございました。1万8,500以上入っていたような気がするばってんですね。2万人を超えていたんじゃないかと誰もがおっしゃっていましたが、数字的には過去最高でよかったと思っております。

それでは、審議に入らせていただきたいと思います。

お手元に配付しております本日の次第に従い、まず執行部から一括して説明を受け、その後、質疑は議題ごとに行いたいと思っております。

なお、委員会の運営を効率的に行いたいと考えておりますので、説明につきましては簡潔をお願いいたします。

○水谷首席審議員兼国際スポーツ大会推進課長 国際スポーツ大会推進課長の水谷と申します。失礼して、座って説明させていただきます。

まず最初に、資料の確認をさせていただきます。

本日、資料はA4横のページ上に、第13回

の特別委員会資料と書いたものが1部、それから別添1、別添2、別添3をつけさせていただいております。

それから、ちょっと申しわけないんですけども、資料の訂正がございますので、最後に資料1枚つけさせていただきます。「ドイツ大会参加国」という資料でございます。

以上でございます。ありますでしょうか。

では、A4横の特別委員会資料をお願いいたします。表紙は、目次になります。これから付託案件について、順に説明させていただきます。

では開いていただいて、1ページをお願いいたします。

最初に、2019女子ハンドボール世界選手権熊本開催に関する件です。

1ページは、大会の概要です。大会の期間は、2019年、平成31年の11月30日土曜日から12月15日日曜日までの16日間です。

試合会場は、パークドーム熊本、アクアドームくまもと、それに八代市、山鹿市の総合体育館です。

参加チームは24カ国、全88試合が熊本で開催され、女子ハンドボールの世界一が決まります。

2ページをお願いいたします。

2月の定例会の委員会以降の、主な取り組みを説明させていただきます。

まず(1)大会基本計画の策定です。大会の概要や競技会場、輸送、宿泊等の大会準備・運営に係る基本的な方針などを定めたもので、3月21日に開催した組織委員会理事会で承認をされました。

大会の意義として、新しい熊本を世界に発信することを基本理念とし、誰もが楽しめる大会、女性が活躍する大会、環境に配慮した大会、熊本らしさを感じる大会の4つを柱として取り組んでいくこととしました。

また、大会の準備・運営に係る、第3章ですけれども、(1)の総務・財務から(19)のフ

ァンゾーンまで19の項目について基本の方針を定めました。

基本計画の本文は別添1として添付させていただいておりますので、後ほどごらんいただければと思います。

3ページをお願いいたします。

(2)日本ハンドボールリーグ女子プレーオフが3月25日、26日の両日、世界選手権の会場の1つ、アクアドームくまもとで開催されました。

地元オムロンペンディーズは、残念ながら決勝には進めませんでした。熊本で初めてのプレーオフということで、県内はもちろん県外のハンドボール部員など多数来場していただきました。

また、主催者のリーグ機構の御厚意により、熊本スポーツ大会実行委員会の企業、団体の皆様を御招待くださり、59の企業、団体、1,331の方が観戦されました。観戦された方からは、初めて見たけれどもスピード感があっっておもしろかったなどの御意見を多数お聞きしました。

4ページをお願いいたします。

国際ハンドボール連盟（IHF）による現地視察です。

3月30日、31日の2日間、IHF担当役員などによる世界選手権の会場地、熊本市、八代市、山鹿市の競技会場や宿泊施設等の視察が行われました。競技会場は観客席、競技ホール、設備、諸室などを、宿泊施設は選手、IHF、メディアのそれぞれが使用するという視点で視察が行われました。

視察の結果は、翌4月にIHFから報告され、その中で山鹿会場の観客席や設備、また八代会場、山鹿会場の宿泊施設について指摘を受け、現在テレビ会議などを通じて確認作業を行っております。

これらについては、今月末に行われます女子ハンドボール世界選手権大会、ドイツ大会のドロー会議の後に、現地で協議を行うこと

としております。

次に、今年度の主な取り組みについて御説明いたします。

6ページ以降で、少し詳しく説明させていただきます。

まず(2)プレ国際大会の実施です。

熊本地震復興支援女子ハンドボール国際大会 JAPAN CUP 2017として、日本ハンドボール協会、世界選手権大会組織委員会の共催で、日本代表、日本リーグ選抜、ポーランド代表、アンゴラ代表の4チームの参加のもと、8月3日から6日にかけて宇城市、人吉市、山鹿市の3会場で4チームによる総当たりリーグ戦方式で計6試合行います。

チケットは、4月1日からセブンイレブンなどで販売を開始いたしますが、さきのラグビーテストマッチ同様、県ハンドボール協会とも連携し、チケットの手売り販売等を通じて集客を図ってまいりたいと思います。料金は前売りで、一般・大学生が1,500円、中高生が700円、3日間通し券は、それぞれ3,000円、1,500円となっています。熊本地震復興支援ということで、日本代表戦としては低料金の設定となっており、小学生以下は無料となっております。夏休みでもありますし、特に子どもたちに世界レベルのハンドボールを見てもらいたいと考えております。

また、今回熊本市以外の3会場で開催することでハンドボールの魅力を伝え、国際スポーツ大会への機運を県全体に広めていきたいと考えております。

次に、熊本大会の前の大会となる、女子世界選手権ドイツ大会についてです。

2年に1回の世界選手権ですので、ドイツ大会は熊本大会の前の最後の大会となります。大会運営についてしっかり視察するとともに、熊本大会への引き継ぎをしてまいります。

参加国ですけれども、開催国のドイツ、前回優勝のノルウェー、プレ大会にも出場する

アンゴラ、アジア予選を勝ち抜いた韓国、日本、中国など全24カ国が出場いたします。

ここで申しわけありません、資料の訂正をさせていただきます。

最後にお配りした一枚紙をお願いいたします。

資料本文には、未決定の中にヨーロッパプレーオフ(9)とありますけれども、ヨーロッパの9カ国は決まっておりました。申しわけありません、訂正させていただきます。追加資料のアンダーラインを引いているところが、9カ国、既に決定済みのところですが、その後、現在パンアメリカ予選がアルゼンチンで開催されておりまして、その出場国で組み合わせ抽選会が今後行われることとなっております。

会場は6都市、ドイツの国内6都市で行われます。ハンブルグの会場がメイン会場となっております。

続いて、8ページをお願いいたします。

今ドイツ大会のドロー会議が今月27日、同じくハンブルグで行われます。熊本大会でも同様に、大会の半年前に行うこととなりますので、この会議の様態も視察してまいります。また、この会議にはIHFの役員なども集まりますので、3月の視察の指摘事項等について現地で協議を行うこととしております。

次に、(4)キャッチフレーズの募集です。

大会の機運醸成を図るため、各種広報媒体上で使用するキャッチフレーズを来月1カ月間公募します。応募された作品を審査・選定し秋に発表し、大会のPRに広く活用してまいりたいと思います。

最後に、(5)実施計画等の策定です。

さきに策定した基本計画に基づき、チケット、マーケティング等、各分野の実施計画を策定するとともに、国際ハンドボール連盟との協議を踏まえ、各会場の基本計画を策定することとしています。

次に、ラグビーワールドカップ2019熊本開催に関する件です。

大会の概要は記載のとおりですが、5月10日に日本大会の予選の組み合わせ抽選が決定いたしました。

(3)になります。

日本は、世界ランキング4位のアイルランド、5位のスコットランドと同じプールAに入りました。また先日のテストマッチで戦ったルーマニアがヨーロッパ地区1に入ると予想されています。

予選は、それぞれのプール5チームが総当たり戦を行い、上位2チームが決勝トーナメントに進みます。ランキング11位の日本が決勝トーナメントに進むには、ランキング上位のアイルランド、スコットランドのどちらかに勝つことが最低条件ですけれども、先週のアイルランドとのテストマッチの結果を見ますと、その壁は厚いものがあると思います。ただ、大会の盛り上がりには地元日本の代表の活躍は欠かせませんので、その奮起に期待したいと思います。

10ページをお願いいたします。

さきに行われました国際テストマッチについてです。

特別委員会の委員の皆様を初めとした県議会の皆様、また県内の企業・団体の皆様、さらに九州各県の御支援を受け1万8,585人の方々に来場していただきました。

次に、(3)観客輸送についてです。

本番を見据え、今回も自家用車の会場への乗り入れを制限した結果、①の自家用車利用のパーク&バスランドが5,240人、②のJR光の森駅からのシャトルバスなどの公共交通機関利用が4,296人、③の県内外からのツアーバス等が2,480人で、合わせて1万2,000人以上の方々が何らかの交通機関を利用して来場されました。それ以外の方は、自転車、バイク、徒歩、また、自家用車でのご近所までの送迎もあったものと考えております。

当日は、大きな交通渋滞はなかったと聞いておりますが、シャトルバスの運用やタクシーの手配など、さまざまな御意見をいただいております。

また、会場では観客の皆様から、観客輸送に関するアンケート調査も行っておりますので、しっかり分析して本番に向けた輸送計画に生かしていきたいと思っております。

次に、12ページをお願いします。

(4)会場整備についてです。

まず、ピッチではワールドカップ本番でも使用する高さ17メートルのゴールポストを整備しました。国内で行われたテストマッチで17メートルポストを使ったのは初めてのことでした。また、ゲームが行われた芝の周りに天然芝を敷設しました。この芝を含めピッチの芝の状態については、ラグビーワールドカップリミテッド——ラグビーの国際連盟に当たるところです、や、実際にプレーした日本代表選手から非常に高い評価を得ました。

また、更衣室は今回整備が間に合いませんでしたので、個別のロッカータイプのもを仮設で用意しました。またトレーニング設備についても、ウェイトの重いダンベル等の一部レンタルで準備しました。これらは2019年の本番に向け、今年度整備することとしております。

次に、13ページをお願いします。

ファンゾーンイベントです。ワールドカップ本番を見据え、試合以外にも観客に楽しんでいただくため、ステージイベントや体験コーナー、グルメゾーンを設けました。

試合のキックオフ時間は午後2時40分、また開場時間は正午でしたけれども、お笑いタレントの出場もあつてか観客の集まりは早く、試合開始前多くの方が利用されておりました。このファンゾーンイベントは観客の来場時間の分散化を図るという目的もありましたので、今回のファンゾーンの実施は一定の効果があったのではないかと考えています。

一方、観客の帰宅についても分散化させるため、試合終了後もステージイベントなどを実施しましたが、そのまま帰宅される方が多く、試合前ほどの利用はありませんでした。

この本番への運用についても、本番に向けてしっかり検証していきたいと考えております。

次に、(6)交流事業です。今回、日本代表、ルーマニア代表のチームにおいては、積極的に県民との交流を行っていただきました。日本代表は、被災地の学校でのラグビー教室や仮設団地を訪れての住民との交流会に参加してもらいました。

14ページをお願いいたします。

ルーマニアチームは、宿舎に近い中学校に選手全員が参加し、ラグビーを通じた交流会が行われました。生徒たちは、選手の大きな体や力の強さに驚きながらも、目を輝かせながら、ラグビースポーツやルーマニア国への理解を深めたと聞いております。

さらに、当日は試合に出場しない日本代表選手による、実際に試合が行われるピッチを使ったラグビー教室が行われました。日本代表が熊本で試合すること自体が初めてでしたので、ちびっこラグビーにはまたとない機会になったと思います。

今回のテストマッチは天候にも恵まれ、県議会を初め多くの県民の皆様の御支援をいただき、特に大きな混乱もなく開催することができました。

このことは、ワールドカップの開催地として、日本ラグビー協会やワールドカップ組織委員会からも高い評価が得られたのではないかと考えています。

また、世界トップレベルの迫力あるプレーを間近に見られたことや、日本代表の勝利もあり、ラグビーに関心を持っていただいた方もふえ、ワールドカップに向けた期待感が高まったと思います。

一方、観客は当初の見込みを上回ったとはいえ、満員の会場にはまだ遠く、観客の輸送も事前の周知を含め今後の課題は多いと認識しています。

ただ、今回テストマッチを開催したことにより、実地の経験を積むという貴重な経験を早く持つことができました。この経験をしっかり検証し、本番に向け今後着実に準備を進めてまいりたいと思います。

次に、今年度の主な取り組みを説明いたします。

14ページの下からですが、まず、この夏以降、公認チームキャンプの候補地の選定が行われます。また9月の中旬に大会の日程が発表され、熊本でも、どの日程でどのチームとどのチームが対戦するかが決まります。あわせて、チケットの販売方法などの情報が発表される予定です。

また、大会の2年前となります9月から10月にかけて、機運を盛り上げるためのイベントを計画しております。12月には国内のラグビートップリーグがダブルヘッダーで、えがお健康スタジアムで行われます。今回は、昨シーズン優勝のサントリーの試合も組まれましたので、ラグビーファンがさらにふえるよう県ラグビー協会とも連携し、集客を図ってまいります。

最後に、来年度4月には大会組織委員会の出先機関となる開催都市組織委員会LOCが設置されます。この設置に向けた準備も進めてまいります。

15ページ以下で、これから個別に説明いたします。

まず(2)会場の整備です。スタジアムの照明、座席、トイレの改修、2面目の大型ビジョンの設置、更衣室、ドーピングコントロール室の改修などを進めてまいります。

16ページをお願いいたします。

(3)九州連携です。ラグビーワールドカップは全国で12会場、九州では熊本のほか福

岡、大分でも開催されます。この3つの会場の知事、市長が先日熊本に集まり、ワールドカップの成功に向けた九州開催地宣言が行われました。この宣言書を本日用意しておりますので、恐れ入りますがごらんください。右上に、別添2と書かれたものです。

宣言では、まん中ほどですけれども、1、最高の観戦環境の提供、2、アジアを初め海外からの積極的な誘客活動に、九州3開催地が協力して取り組むこととしました。

また最後の段落ですけれども、女子ハンドボール世界選手権や福岡市の世界水泳選手権にも協力して、誘客等に取り組んでいくこととしました。

この開催地宣言が行われた日の午後、鹿児島県で九州地方知事会議が開催されました。その際、この宣言を知った佐賀県知事からは、そのような宣言をするなら声をかけてほしかったとか、鹿児島県知事からも九州一体となって取り組んでいこうという意見が出されました。

今後、次に説明する公認チームキャンプの実施など、開催地以外の県も含め九州各県が連携して、大会開催に向け準備を進めてまいります。

次に、(4)公認チームキャンプ地誘致についてです。

公認チームキャンプとは、大会期間中、出場チームがベースキャンプとするものです。組織委員会が一元管理するもので、宿泊費、移動費、食費等は組織委員会が負担します。

今回のテストマッチでも日本代表は北九州でキャンプを行っており、熊本には試合前日に入り、翌日には別なキャンプ地に移りました。ですから、熊本で試合をしないチームも、熊本で公認チームキャンプを行う可能性もあります。この公認チームキャンプには全国で76件、90の自治体が応募し、九州では資料のとおり16件の応募がっております。熊本は、県と熊本市が連名で応募いたしました。

た。

この夏以降、応募した中から公認チームキャンプ地の候補地が決定され、各チームの実施視察を経て来年春以降、順次キャンプ地が決定されることになっています。

前回のイングランド大会では、全部で41カ所公認チームキャンプが行われ、予選の期間中は1チームが1カ所の公認キャンプ地で使用した平均日数は9.8日、1チームの平均公認キャンプ地の使用数は3カ所だったとのこと。中には、複数の公認キャンプ地となって滞在が27日に及んだところや、3チームを受け入れたところもあったとのことでした。

さきのテストマッチではルーマニア代表から、熊本の練習環境はよいとの声も聞かれておりますので、チーム準備視察が行われる際は選ばれるよう、しっかり対応したいと思っております。

最後に(5)開催都市、開催都市組織委員会(LOC)の設置に向けては、執務環境の整備や組織体制の整備、また研修などを行ってまいります。

次は、Ⅲ 2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に関する件です。

17ページにはオリンピック・パラリンピックそれぞれの概要を記載しております。

続いて、本県の取り組み状況を説明いたします。18ページをお願いいたします。

まず、(1)キャンプ地誘致についてです。

①のインドネシアバドミントンの誘致については、県として国のホストタウンとして登録し誘致を進めてきましたが、昨年のリオオリンピック後、インドネシアバドミントン協会の会長が交代されました。その後、事務局とのメールのやり取りを通じ交渉の糸口を探ってきましたけれども、今月初めにビラント新会長との面談の機会を得ることができました。写真が、そのときの様子です。

新会長にキャンプ地受け入れの知事の親書



を渡すとともに、キャンプ誘致につながるインドネシアナショナルチームと再春館製薬所チームとの交流試合、ジュニアチーム同士の交流試合、協会役員による県内の競技施設、宿泊施設の視察の3点について提案を行いました。この提案については、7月いっぱいまで回答するとのことでした。

次に、②ノルウェーボートカヌーチームについては、ノルウェーオリンピック委員会との協議事項の調整を行っており、8月にはキャンプが行われる菊池市内の競技施設や宿泊施設の視察が行われる予定です。

③その他ですが、県ではオリンピックキャンプ等の誘致活動を行う市町村や競技団体を支援する事業を実施しています。その誘致活動を、より積極的に実施していただくため、今年度誘致段階における支援の上限額を50万円から100万円に増額するとともに、誘致活動に伴う海外訪問経費についても支援の対象とすることとしました。これらについては、7月に開催します市町村説明会などを通じて、その活用を呼びかけていきたいと思っております。

次の選手育成に関することについては、それぞれの担当課から説明をいたします。

○西村体育保健課長 体育保健課でございます。よろしくお願ひいたします。

着座にて説明させていただきます。

19ページをお願いいたします。

(2)の選手育成に関することで、本課におきましては①の2020東京オリンピックに向けた選手育成事業を実施しております。本年度の予算は、2,128万3,000円でございます。

東京オリンピック競技の各競技団体の推薦に基づきまして、5月17日に選考委員会のほうを実施し、6月9日に――20ページ、次のページになりますが、に掲載しております31人に指定書等を交付したところでございます。現在、該当の競技団体と県の体育協会が

一体となりまして、育成事業を始めたところでございます。

なお、選ばれております選手育成の選手につきましては、世界選手権や全日本選手権等での優勝など成果を残している選手ばかりで、東京オリンピックに出場することを心から期待しているところでございます。

今後とも、県体育協会及び関係競技団体としっかりと連携を図りながら、2020年の東京大会ではより多くの関係者が出場し、県民の皆様にも元気と活力を与えることができるよう取り組んでまいりたいと考えております。

以上です。

○奥山障がい者支援課長 障がい者支援課長でございます。よろしくお願ひいたします。

着座にて説明させていただきます。

資料の21ページをお願いいたします。

障がい者支援課においては、②の東京パラリンピックに向けた選手の育成・強化を担当しております。本年度当初予算において1,200万円を予算化させていただき、13名の選手を強化選手として指定、合宿遠征費の補助を行うほか、医師などの専門家から成るマルチサポート委員により、医科学を活用したトレーニングの提供を行うこととしております。

また、本年度はアスリートの方に専任コーチを選出していただき、専任コーチのもとで効果的なトレーニングを行うことができるよう助成の充実を図るとともに、新たに専任コーチとマルチサポート委員による連絡会を実施することとしております。

スケジュールとしましては、4月から5月に障がい者スポーツ競技団体や学校などから対象となる選手の推薦をいただき、5月に選考委員会において選考を行ったところでございます。今後7月に選手の指定を行う予定でございます。

事業は、熊本県障害者スポーツ・文化協会

や各競技団体において実施することとしており、2020年の東京大会において、より多くの本県関係者が出場できるよう取り組んでまいります。

以上でございます。

○水谷首席審議員兼国際スポーツ大会推進課長 続いて説明させていただきます。

21ページの下(3)をお願いいたします。

オリンピック・パラリンピックフラッグツアーについてです。

4月26日に県庁の新館ロビーで行われたフラッグツアーイベントにおいては、当委員会からも多数御出席をいただき、ありがとうございました。

イベントではオリンピック旗がオリンピックの藤井さん、安藤さんそして小池東京都知事を経て蒲島知事へ、パラリンピック旗がパラリンピアンの方の浦田さん、乗松さん、佐藤組織委員会副事務総長を経て岩下議長に引き渡されました。

引き渡された2つの旗は、その翌日から7月7日まで県内を巡回展示されています。

当初は12市町村20カ所の予定でしたが、追加要望を得て期間を延長し、20市町村31カ所を、23ページのスケジュールで現在実施しているところです。

22ページの下の写真や、24ページにありますように、それぞれの会場でイベントを行ったり、より多くの方が参加されるよう工夫されていますけれども、中には周知が十分されていないのではないかと御意見もいただいております。今後の実施市町村には改めて、広く周知を行うように要請したいと思います。

最後に、Ⅳ 共通する事項です。

25ページは、3つの国際スポーツ大会の主なスケジュールをまとめたものです。内容は、重複しますので省略いたします。

26ページをお願いいたします。

これらの国際スポーツイベントの開催を通じ、後の世代にレガシーを残していくための取り組みの方向性を、昨年、くまもとハロープログラムとして取りまとめました。

本日は、その中の方向性の1つ、誰もが生涯スポーツを楽しめる環境の整備における取り組みを紹介いたします。

ことし3月、教育委員会とともに心のバリアフリー活動の一環として、疑似体験会、ダイアログインザダークに参加しました。ダイアログインザダークとは、完全に光を遮断した空間の中へグループを組んで入り、視覚障がい者のアテンドのもと、さまざまなシーンを体験する取り組みです。この取り組みを12月、熊本でも開催することとしております。より多くの県民の皆様に体験していただき、障がい者も含めて誰もが国際スポーツ大会を楽しんでいただく環境を整備してまいりたいと思います。

また、今後もレガシーを残していく取り組みとして、このような取り組みにも多くの方が参加していただくとともに、国際スポーツ大会を契機としてこのような取り組みが今後多く行われるよう、さまざまな企業、団体とも連携を図っていききたいと思います。

次に、(2)九州各県、経済界との連携です。

先月、九州地方知事会議、九州地域戦略会議が開催され、その中で国際スポーツ大会の開催を契機とした九州・山口地域の活性化が討議内容の1つとして話し合われました。

九州・山口では今後、27ページにありますとおりさまざまな国際スポーツ大会の開催が予定されており、各県や経済界が連携して機運の醸成、誘客と波及効果の拡大に向けた取り組み、受け入れ体制の整備等について討議が行われました。

また、別添3にありますとおり、国際スポーツ大会の開催や事前キャンプ誘致に対する支援などについて、国に要望することとなり

ました。九州議長会においても、同趣旨の要望をしていただくと伺っております。

今後さらに九州各県連携し、国際スポーツ大会の成功に向け取り組んでいきたいと思っております。

最後に、28ページをお願いいたします。

当特別委員会の御支援を受け、当事務局体制も年々拡充してまいりました。

昨年度は熊本地震の影響で、一旦拡充したものが一部縮小しましたが、今年度は新たに警察本部や八代市の職員も加え、事務総長ほか総勢39名体制で、県庁本館6階で業務を行っています。

これまで御説明しましたとおり、今年度以降業務はさらにふえていくと思われまます。今後も変わらぬ御支援を、よろしく願いいたします。

大変長くなりましたが、説明は以上です。御審議のほど、よろしく願いいたします。

○池田和貴委員長 以上で執行部からの説明が終わりましたので、質疑に入ります。

まず、最初の2019女子ハンドボール世界選手権熊本開催に関する件について、何かありませんか。

○荒木章博委員 ハンドボールの会場はどこなんですかね。

○水谷首席審議員兼国際スポーツ大会推進課長 資料の1ページにつけておりますけれども、試合会場はメイン会場がパークドーム熊本、サブメイン会場が熊本市のアクアドームくまもと、それと八代市、山鹿市の総合体育館の4カ所でございます。

○荒木章博委員 わかりました。

今度やるのがテストマッチじゃないけど普通の、日本チームが試合をやるということで、これは場所はもちろんパークドームでや

る。

○水谷首席審議員兼国際スポーツ大会推進課長 8月に行いますプレ大会ですけれども、これは6ページに資料をつけておりますけれども、パークドームではございません。宇城市のウイングまつばせ。

○荒木章博委員 何人ぐらい入っとですかね。

○水谷首席審議員兼国際スポーツ大会推進課長 3カ所とも1,500人程度です。

○荒木章博委員 私も1期のときに世界ハンドボールを経験して、アクアドームで非常に感動してやった経験があるんですけども、これ入場料が1,500円か、今回のやつは1,000円以下ということで安いというようなことだけれども、かなりやっぱりこれ努力しないと、簡単に人は入らないですよ。だから、ラグビーもあれだけ皆さん、委員長初め皆さん方が努力をしてやられて、やっぱこういうような形になったんですけども、何とかな、盛り上げ方が下手なんですよ。また後ほど僕は言うんですけどね、オリンピックやらの件でね。だから、そういうところをやっぱりしっかりかみしめて、その競技の運動というかスポーツの、各学校あたり、体育保健課長さんにも僕は厳しいことを言ったんですけど、非常にやっぱ学校、そういう子どもたちにどう感動を与えて、またどういうものであるかということをしつかりやっぱ、もちろんその学校でハンドボールを取り入れたり、いろんな選手が来て交流会を図ったり、そういうことももちろんですけど、やっぱどちらかという熊本のスポーツに対するその機運というのは低いような感じがするんですよ。

だから、そういうところをしつかりかみし

めて私は今後も、まあ後ほど言いますが、これも、考えていただきたいというふうに、これはもう要望しておきます。

以上です。

○池田和貴委員長 はい、わかりました。ほかに何かございませんか。

○藤川隆夫委員 主会場がパークドームになっていますけど、今の日程でいくとパークドームが入ったプレ大会みたいなが入ってないので、やっぱりどこかで1回やっておかぬといかぬのかなと思うんですけど、今後のスケジュールの中でプレ国際大会というのがあるので、そこでも使われるのかなというふうにも思うんですけど、それどういうふうになっているのか教えてもらえますか。

○水谷首席審議員兼国際スポーツ大会推進課長 パークドームについては、通常スタンドがありませんので、本大会では仮設席をつくって会場整備をしたいと考えております。ただ、仮設整備をつくるには、かなりの期間と費用もかかりますので、プレ大会では現在のところは使うことは考えておりません。

○藤川隆夫委員 ということは、メイン会場でありながら、本大会のときしか予定してないということになりますよね。

○水谷首席審議員兼国際スポーツ大会推進課長 そうです。ただ、20年前の男子の大会のときもメイン会場はパークドームでしたけれども、その前の大会は、それ以外の県立体育館とか市の総合体育館を使ってやって、パークドームではやりませんでした。

○藤川隆夫委員 わかりました。できれば、どこかで本当は使ったほうがいいかなと思うんで、ちょっと言わせてもらいました。

○池田和貴委員長 ほかにございませんか。

○氷室雄一郎委員 何か連盟のほうから視察に来られて、宿泊施設に対する指摘があったというんですけども、これは重たいものなんですか、軽いものなんですか。

○池田和貴委員長 重たいものなのか、どういふものなのかということ。

○水谷首席審議員兼国際スポーツ大会推進課長 指摘については、ホテルについては八代市と山鹿市の会場でありました。八代市の会場については、ちょっと施設が老朽化しているので、その点を改善してほしいという御指摘と、山鹿市の会場については、山鹿市の予定しているホテルが、会場からちょっと離れているものですから、その移動のやり方とか時間とか、その点について確認の指摘があったところです。ですから、なかなか重いといえども、地元の自治体とも協力して解決していきたいと考えております。

○池田和貴委員長 よろしいですか、氷室委員。はい。

ほかにございませんか。

なければ次、ラグビーワールドカップ2019熊本開催に関する件について、質疑はありませんでしょうか。

○橋口海平委員 先日のテストマッチは、本当お疲れさまでした。

そんな中で、動員というものが非常に大変だったと思うんですが、チケットのどれぐらい売って、どれぐらい来たかという着券率を教えていただければと思います。そこでまた無料で配った分も多分日本協会とかあるんですかね、そういうものの着券率とかもお願い

します。

○池田和貴委員長 水谷課長でいいですか。

○水谷首席審議員兼国際スポーツ大会推進課長 わかりました。資料にありますとおり、当日の集客は1万8,585人でした。日本協会からチケットが出た、売ったものと今おっしゃった招待を含めて2万1,777枚の券が出ましたという報告を受けております。ですので、来場率といいますか割り戻すと、85%ぐらいの方が来場されたという結果にはなっております。

ただ、おっしゃったように招待という形という方もおられまして、例えば学校の観戦では大体3,000以上招待させていただいたし、また福祉施設も200人以上招待いただきました。

それで日本協会のほうが、スポンサーの方とかに配られた券もあったと聞いておりますので、実際、券が売れたという数字としては、1万5,583枚という報告を日本協会からいただいております。

○橋口海平委員 この前の静岡県であった着券率というか、あそこは結構無料招待で配ったというような話を聞いたんですが、そういう着券率とかというのは、わからないものですか。

○水谷首席審議員兼国際スポーツ大会推進課長 これは私どもはまだ報道でしか知ってないんですけども、静岡では来場者が2万7,381人で、チケットは3万以上出ているというのは伺っておりますけれども、ちょっと詳しい内容まではまだ確認しておりません。

○池田和貴委員長 よろしいですか。はい。

ほかにはございませんか。

○西聖一委員 本当にプレ大会お疲れさまでした。

動員も本当心配しておりましたが、本当にスムーズに流れたと思っています。

きょう、ここに11ページに表が出ているんですけど、やっぱり感じたのが、私たち県議会はバスを貸し切ったから、もう全然問題ないんですけど、やっぱり路線バスをずうっと、バス停を見ていると、外国の方が結構目についたんですね。この数を見てもやっぱり、600人という数からすると、県内の人はほとんど車だと思うけど、本当の大会のときには、やっぱり外国人の方はバスを基本的には利用するんじゃないかなというのを感じたもんですから、これでも臨時バスとしているから混乱はなかったんだと思うんですけども、これのてこ入れが必要かなというのが1つと、あと1点、いろんなクレームもあったんですけども、流していい分がほとんどだったんですが、1つ気になったのが、ラグビー大会だけ開催されていたのを、テニスコートとか陸上競技でいっぱい空いているけど全部、誰も人もいないので何か寂しい運動公園だったですよという話を聞いて、なるほどなと思ってですね。人が集まるから閉鎖というのはよくわかるんですけども、運動公園の機能がその1カ月間ずっととまってしまうのかなというのが、ちょっと心配したもんですから、そこら辺を何か考えておられるかということをお聞きしたいと思います。

○水谷首席審議員兼国際スポーツ大会推進課長 今回のテストマッチは、おっしゃるとおり、ほかの会場を利用可とすると、一般の県民の方が利用されると、やっぱりすごい来場されますので、また渋滞に拍車をかけることになってしまいますので、全会場貸し切りということでやらせていただきました。

あと本番の大会は、期間は44日間あるんですけども、実際試合があるのは3試合程度

かなと思っております。ですので、試合の開催前から確かにちょっと貸し切り状態は続くとは思いますが、そのラグビーで使う場所以外をどうするかについては、今後またそのスケジュールを見ながら検討していきたいと思えます。

○西聖一委員 よろしくお願ひします。

○氷室雄一郎委員 きょうは警備第二課長も交通規制課長もお見えになっておりますので、その当日の交通の規制なり、そういう面で何か課題というのはあったんですかね。

私はずっと歩いて帰ったんですけども、もう農道等かなり車を止められて、迷惑された部分もあると思うんですけども、交通規制課のほうと、また両課長から何か課題点がありましたら御指摘をいただきたい。

○瀬河交通規制課長 当日の渋滞状況についてを御報告しますと、益城菊陽線、国体道路の南北線ですね、ちょうどグラウンドの前の通りになりますが、これが最大渋滞長は、ちょうど13時ごろ1キロ、その後14時50分ごろ1.2キロということになっております。

ただ1週間前の土曜日のやはり渋滞長を見ますと、やはり14時50分ごろ1.2キロという渋滞がございますので、これは恒常的な渋滞というか、光の森に買い物に行く人間の渋滞で、この日の大会の渋滞というのは13時ごろの1キロかなと。

それと、ほかの関連道路の渋滞を見ますと、社会保険センターの前ですね、ちょうど身障者福祉センターの角の交差点なんですけど、あれが東行きがちょうど13時ごろ約1キロ、そうすると西行き市内方面に抜けるのが大体17時半ごろ1.5キロ渋滞しております。

1週間前の渋滞は最大600メートルぐらいですので、この分がこの大会によって出た渋滞だと思えます。通常のロアツの試合と

比べて、そう極端に多いというものではございませんでした。

あと委員御指摘の課題というところが、確かに個人送迎の車両については制限したんですが、やはり近所のコンビニとか弁当屋、あのあたりに迎えの車が大分入って、ただそれから、駐車場からあぶれた車両が小山団地内の細街路に入って、苦情等はございませんでしたが、私が見て回った中では大分、主要道路じゃないところに渋滞がきていたというところはございます。

また、あとガードマンあたりの配置につきましては、今後ちょっと検討を加えていかなければならないかなというところはございました。

バス輸送については十分キャパの内で輸送できたと思えますので、シャトルバス等の関係については、交通管理者としては何も課題等は感じておりません。

以上です。

○森本警備第二課長 警備第二課長の森本です。

当日、県警本部のほうでは、今交通対策のことを規制課長が言いましたけれども、県警としましては警戒警備それと雑踏事故防止、この観点から熊本東警察署長以下署員、それと警察本部からは、私以下警備第二課の職員、雑踏対策で地域課の課長以下と交通規制課長以下で、所要の体制で対策を打ってまいりました。

また警察本部の幹部としまして、警察本部長、生活安全部長、警備部長等も現場の状況を確認するために視察を行っております。

結果的に、今申し上げましたとおり警戒警備を強化する、それと雑踏事故をなくす、それと交通をスムーズに動かすという三本立てであります。

結果的に、警戒警備につきましては、ゲートが3つございましたので、そこの入場口に

制服の警察官を配置、それと事前に配置されている警備員の方と協力しながら、不審者の入場がないのかチェックを行っております。

それと雑踏対策についても、やっぱり結構時間前に外のほうに並ばれておられるお客様も多数おられたみたいです。この方が入場開始と同時に走って入場したりとかすると、けがのもとでもありますので、スムーズに入られるように誘導措置というのものも、自主警備員の方とともにっております。

そうした結果、雑踏等の事故等もあっておりません。一部、迷子になった方あるいは傷病人の方が出られておりますけれども、これも現場にいた警察官それと警備員の方で対処しております。

課題ですけれども、警戒警備の観点から申し上げますと、当日につきましては入場される方の手荷物検査というものを行っておりません。ただし、どうも動きがおかしいとか、大量に場にふさわしくない大きな荷物を持っておられるとか明らかに不審な方がおられれば、自主警備員の方とともに、うちのほうでも職質して開示していただくというようなことを考えておりました。しかし、そういった場面は出ませんでした。

ただし、世界におけるテロの発生状況を見ますと、大規模集客施設におけるテロというのが非常に最近頻発しておるような状況でございます。日本の国内においても、そういった事案が起こらないとも限りません。ですから、やっぱり本番を控えれば手荷物検査というのは非常に重要になってくるのではないかなと考えております。これは主催者の方と協議を重ねて、雰囲気壊すことのないようにやりたいと。必要な措置は講じて、テロ対策を強化してまいりたいと考えております。

以上です。

○氷室雄一郎委員 本番はまだ、あと1万人を超す人々が来場されるという見込みでござ

いますので、課題点は同じでございましたけれども、今回は割合スムーズにいったんではないかと思っておりますので、今後の体制をしっかりと検討して、スムーズにいきますように御尽力いただければと思っておりますので、よろしく申し上げます。

○池田和貴委員長 よろしいですか。

○氷室雄一郎委員 はい。

○松田三郎委員 このテストマッチは、いろいろな目的なりそして効果なりあった中で、水谷課長の御説明にもありましたように、県とすると、運営側からすると、本番に向けてのリハーサルを兼ねた大きな位置づけもあったんだろうと思います。

そこで、一部重複するかもしれませんが、御説明もありましたし、委員からの質問等で重複することがあるかもしれませんが、試合終わって一番多かったそのクレームなり、ちょっと県側も不十分だ、やってみて、やっぱりこういうことはちょっとまずかったなというのがあったかどうか、一つか二つですね。まだ期間がありませんけど、本番に向けてその点はこういうふうに改善しようと、決して、ここがけしからぬ、あそこがけしからぬと、我々も言うつもりじゃなくて、同じ思い、本番に向けてよりよい準備なり運営ができればという思いもありますので、代表的なあるいは多かった1つ、2つですね、ありましたら教えていただきたいと思っております。

○水谷首席審議員兼国際スポーツ大会推進課長 委員おっしゃるとおり今回、私たちのリハーサルという面も大きくありました。

一番大きかったのは、やっぱり観客輸送をいかにするかという点でございまして、その点でのいろんな御意見も確かにいただきました。

中にちょっと私も見て思ったのは、タクシー、交通機関としてのタクシーですね。こちらについて、いろいろ御意見をいただきました。例えば、熊本市のタクシー協会さんにタクシー乗降場の位置をお知らせしておったんですけども、その周りの本市以外のタクシーの団体さんにはそれを伝えてなかったものですから、どこで降ろせばいいのかわからなかったとか、そういった御意見をいただきました。

それと、試合が終わった後、そのまま飛行機で帰られる方もたくさんおられましたけれども、そこへの交通機関が、いわば光の森経由でぐるっと大津から行くという方法もあったんですけども、やっぱり初めて来られる方はそういうルートがあるということは、なかなかぴんとこられなかったので、タクシーの列にずらっと並ばれました。それで、またタクシーもなかなか帰りの台数がそろわなかったものですから、かなり待たせたなというのが、ちょっと大きな反省点としてはあります。

それとシャトルバスの運用で長く列ができるものですから、途中から列を1列から2列に急に変えたときに、まあ後入りされたような、順番が前後するような形で乗られた場面が、行きも帰りも何かあったと聞きましたので、ちょっとその場が騒然となったということは聞きましたけども、その運用の仕方ですね、台数はあったのに順番に時間どおりにしか出せなくて待たされたとか、そういったシャトルバスの運用、大きくはその2点ちょっと、今後の検証はもちろんやっていきますけれども、取りあえず聞いた中ではその2点が印象に残った御意見でありました。

○松田三郎委員 バスに関しては、私も何人かからそういう話は聞いた記憶があります。

今の話ですと、何とか改善もできそうなレベルと言うと失礼かもしれませんが、実際に不

満に思った方からすると大きな事件かもしれませんが、今の話でいくとそうそうお金、労力をかけずに改善できそうということではないですかね。

○水谷首席審議員兼国際スポーツ大会推進課長 運用面で何とかなれる範囲かなとは思いますが、さっきお話があったとおり、本番ではさらに1万人の動員を考えておりますので、そのときに果たして今のシミュレーションでうまくいくかどうかも含めて、もう1回検証したいと思います。

○松田三郎委員 あと、済みません関連しましてファンゾーン、これ多分、私も聞くだけでは何だろうか、多くの方もそういう御認識だと思います。幸いにも、私議長のとときにロンドンのほうにもあるいは女子のハンドボールに行って実際見ましたので、何となくそれもわかっているほうだと思います。あとこの委員会で溝口委員、楠本委員、橋口委員も見て、体験なさっておられると思います。なかなかこの見てない人は、執行部にも何人かいらっしゃいますけど、これなんだろうかとファンゾーンというのはという、非常にイメージしにくいんだと思います。

ただ、私たちも今回のテストマッチではすぐ会場に入ったので、さっき御説明ありましたが、ああ、あそこで何かイベントやりよるなというぐらいしか見ておりません。おおむね終わってからの午後はちょっと少なかったという御説明でしたけれども、おおむね所期の目的は今の段階では達成できたのかなというような、説明を聞く限りはですね。この点についてどうですか、何か、もうちょっとこうすればよかったとか、今回は会場周辺だけだったんでしょうけれども、ありましたら教えてください。

○水谷首席審議員兼国際スポーツ大会推進課



長 ファンゾーンに関しては、確かにファンゾーンという言葉がなかなかまだ一般的じゃないものですから、それをまず知らせる努力が必要だなとは思いました。

それと、あと運用面についてはやっぱり終わった後ですね、いかにそこに滞留していただくかの工夫が、せないかぬなというところがありました。

○松田三郎委員 わかりました。最後にちょっと細かい、今の関係ですけど、ラグビーの場合は全体の中の多分3試合ぐらいだろう。ハンドボールは全試合県内でやる。ファンゾーンの場所とか、例えば3試合のときだけとかなのか、あるいは全体の大会が開催されている間ファンゾーンをやるんですよと、以前説明あったかもしれませんが、場所とその期間というのを、両方の、ちょっと再度確認といたしますか教えておいてください。

○水谷首席審議員兼国際スポーツ大会推進課長 ファンゾーンのやり方も、前回のイングランド大会も視察いただいたときにあったと思いますが、幾つかパターンがありまして、会場の近くでやる場合と会場と離れて、例えば熊本市だと熊本の中心部でやる場合もあります。それをどう組み合わせるのかについては、まだこれから組織委員会と協議をしながら決めていきたいと思っております、まだ確たる期間を何日にするとか試合の開催日だけやるとか、またはそれ以外の日だけやるとか、そういったこともいろいろ検討しながら今後決めていきたいと考えております。

○松田三郎委員 はい、いいです。

○池田和貴委員長 よろしいですか。

○松田三郎委員 はい。

○溝口幸治委員 関連して。

済みません。今、松田委員のに関連してですけど、当日、今回は9割ぐらいが日本人の方で、1割いたかないかというのが外国人だったと。

けど本番になると、おそらくこの割合がぐっと変わりますよね。先ほどおっしゃったように、我々もイングランドへ行かせていただきましたけど、まさに多国籍というか、ラグビー先進圏は多くのファンの方々がついてこられるということで、少し、今後しっかり検討してほしいんですけど、例えば路線バスの表示だとかタクシーの乗り降り、あるいはシャトルバス、こういったものが、その国の言語にある程度対応していかないと、やっぱり今回のテストマッチ、テストケースとでは大きくやっぱり変わってくるんだろうと思いますので、そこはやっぱり頭に入れておくと、今回、日本代表だったので我々も、苦しいチケット販売でありましたが、まあ日本代表なので買っていただきましたけど、これが全く知らない国と知らない国の対戦で数を集めなければならないという状況になってきますね。そうすると、今回は今回でしっかり皆さん頑張っていたいただいたんだけど、もうちょっと枠を広げて、それぞれの市町村だとかそれぞれの市町村のいろいろな団体だとかという形で、もっと枠を広げておかないと、今回1万8,000いったから次あったときというのは、これは日本代表が来れば別ですよ。日本代表じゃない場合には大きく苦戦をするんだろうというふうに思います。

先般ちょっとニュージーランドに数名の方と視察に行かせていただいたときも、やっぱり何というか、余り有名じゃないところのカードというのは、ものすごく観客動員が図れてないというお話もありましたので、そういったこともぜひ今回想定をしながら、まあしっかりそれぞれの課で検証いただいているようですので、そういったものもちょっと加味

しながら対策を立てていただきたいというふうに思います。

○池田和貴委員長 何か答えるところあるかな。いいですか。

○溝口幸治委員 いいです。

○池田和貴委員長 いいですか。はい。

○岩田智子委員 本当にテストマッチ、私初めてラグビーの試合を生で見させていただいて、本当に行ってよかったなと思いました。紹介した人とかも行こうよ行こうよと言った人たちも、「ええっ」とか言う人もいたんですけども、行ったらもう、終わったら「本当によかった」と言って皆さん帰られていました。

私も気づいたところを、やっぱり初めてだったので次どんなふうにしたらいかなというので、いろいろ見て回ったりしたので、ちょっとお知らせしたいところもあって発言します。

一つは、さっきタクシーの話がありましたけど、私もちょっと試合に行く前にあちこち行ったので、タクシーを利用して行きました。そのタクシーも、きょうは何ごとですか。きょうはラグビーの国際テストマッチですよと言ったんですけど、そのタクシーの方は知りませんでした。だから、どこで降ろせばよかったですかねということもありましたね。

帰りも私はなかったのですが、タクシー乗り場に行きました。全然タクシーがいませんでした。だから、その係の方が気をきかせて「空港に行かれる方」とか集めて、何人かで一緒に乗られるように指示をされていました。私も健軍方面なので、「健軍方面に行く人」と言って3人ぐらいで一緒に乗って行っただんですけども、割り勘、一人で乗るつも

りなのでお金のことは全然いいんですけども、それで全然トラブルはなかったんですが、私たちのあれはですね。そういうのもうだったかなと、ちょっと後で心配しました。でも、その係の方の機転と言うかな、その集めたのはとてもよかったなというふうには思いました。

だから、先ほど周知がそれ以外のところになかったというのを聞いて、ああやっぱりすごい周知をしていただきたいなというふうには思いました。

それと、これはバックステージで見た私の友人たちが言っていたんですけど、放送というか、声が全く聞こえなかったということを言われましたので、それをちょっと私に言ってくださいということで頼まれたので、きょうお話をしておきます。

それから、荒木委員が以前に学校での取り組みばもうちょっとしてくれと言われて、先ほど3,000枚かなんか学校にと言われましたけど、学校へのその後の取り組みというかな、テストマッチまでの取り組みどがふうにされたのかなというのを、ちょっと聞きたいなと思っています。

以上です。

○池田和貴委員長 私からもちょっと、今、岩田先生に関連して私も最後に言おうかと思ったんですけども、やっぱりマイクが私たちの席もほとんど聞こえなかったんですよ。来た人の中でこういうイベント関係をされている方がいらっしゃって、その人から言わせると、本当はもっとスピーカーをきちんと高出力のを適所に配備しないと、声はあれじゃ聞こえませんよという話でした。特に声は会場を盛り上げることもありますけど、いざとなったら何かあった場合には観客の方にお知らせをする非常に重要なツールなので、そういった意味ではやっぱり、今、岩田先生がおっしゃいましたけど、音声ですね、これ

がきちんとやっぱり届くようにしておくというのは、やっぱり必要なことかなと思ったですね。

済みません、私も言おうと思ったので関連して。

何かありますか。

○水谷首席審議員兼国際スポーツ大会推進課長 音響につきましては、RWCLの視察のときも検討の話がありまして、現在は仮設で対応するのか、今おっしゃるようにスピーカーを置くのか、またこの施設で整備するののかについては協議しているところでございます。現在のところ今のままじゃいけないという認識は十分持っております、本番に向けて何とか改善策を考えていきたいと思いません。

それと、先ほど岩田委員からありました学校への周知については、学校の方々にぜひ観戦していただきたいと思ひまして、県の教育委員会とあと私立の学校も含めて希望調査をとらせていただきました。あとまた5月に、荒木委員から出た、もうちょっとしっかり周知をせないかぬということもいただきまして、その後はうちの事務局とか各方面で周知を図った結果、3,300の希望がありまして、そういう希望をされてきたところには全員招待券といいますかチケットを配って、来ていただくようにしたところでございます。

○岩田智子委員 ありがとうございます。

それともう一つですね。女性という視点です、ちょっとその点でないですかという話だったので、トイレ等も改修の予定があるのでちょっと安心しましたけれども、やっぱり和式のトイレだったので、女性だからじゃないですけど、使いにくかったなというのも1つありましたし、でも数的には意外と多かったのです、そんなざらっと並ぶということにはなかったような感じでした。

あと、ゴミ袋とかもきちんとそこそこ置いてあって、よかったなというふうに思っております。

以上です。

○池田和貴委員長 ほかに誰かいらっしゃいませんか。

なかったら済みません、私から1点。

先ほどの音声の件はぜひ言っていただきたいと思ひますけど、あともう一つ、いろんな周知のやり方で先ほど溝口先生がおっしゃいましたけど、これ国際化になってくると、言語かなり用意せんばいかぬですよ。今までみたいに紙ベースだけだと、やっぱり限界もあるので、やっぱり今ほとんどスマートフォンを持っていることを考えると、そこに何か情報がどんどん流れるようなことの仕組みも、やっぱり考えたほうがいいと思ひ、それは今後のやっぱり観光の戦略とかそういう中でも一緒じゃないかというふうに思ひますので、そういったところもぜひ考えていただきたいというふうに思ひます。

続きまして、2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に関する件について質疑ございませんでしょうか。

○荒木章博委員 先ほどから国際大会についてはいろいろな話題が出ておりますけれども、フラッグツアーが、熊本県知事が要望されて都知事が来られて、このオリンピック・パラリンピック旗というのを持参をされた。

そして、現在、各地域を回って市町村やっているわけですが、また自分ところもやりたいというプラスがあったと聞いておりますけれども、そういったのはやっぱり周知が足らなかったんじゃないかというふうに思ひますけど、どうでしょうか。

○水谷首席審議員兼国際スポーツ大会推進課長 今回のフラッグツアーについては、県庁

で一旦東京都から引き渡しを受けて、その後県内を回るということを当初から予定していましたので、県内の全市町村に実施については照会をいたしました。その照会の結果、上がってきたのが当初20カ所だったんですけども、12市町村20カ所、最初がですね。その後その引き継ぎ式があったときに結構メディアにも取り上げられましたので、そういうのがあるとは思わなかったとかという話もあって、うちもやりたいという声が続々上がりました。

それで、最初に手が挙がらなかったところにもう1回照会しました、やりませんか。結果が合わせまして20市町村の31カ所になったということでございます。

○荒木章博委員 淵上先生がおられるけん失礼かもしれぬけど、山鹿の市長あたりに尋ねたら、知らなかったと言うんですね。だから熊本県が市町村にずっと連絡されたんでしょう。そうしたら各トップの市町村長には伝わってなかったんですね。だから、それをテレビや新聞を見て市町村がびっくりされて、「俺、聞いてないよ」と。だから、やっぱりそういうところの徹底というのをやっぱり私はしていただきたいと思うんですね。それが、テレビを見たからそうだということではなくて、照会は全部されたことでしょ、市町村には。そしてまたフラッグを延ばしますということで東京都にお願いをされて、実際延ばしたと。約束の期限よりも延びたわけですよ。

だから、やっぱりそういうところがないようにしておかないと、他県と比べてまたそれから延ばすなんというの、やっぱり。もう少しそういうところを僕は徹底してほしいなと思うんですけども、どうでしょう。

○水谷首席審議員兼国際スポーツ大会推進課長 市町村の担当課のほうに通知をして、そ

れで我々はしたつもりではおったんですけども、まあ大事な事柄ですので、ぜひ市長なりですね、上層部にもちゃんと確認の上御返事いただくよう、今後頑張りたいと思います。

○荒木章博委員 だからですね、市長に会ったりすると、「俺そんなこと知らないよ」という意見が実際、何かの市町村から出たものだから、急遽担当課を調べたら、来ていたけれども県から来ていた。しかし、自分のところの連携が悪かったということなんですよ。ただ、結果的には、やっぱり本部のほうにしてみれば、そういう熊本県の一体化がないということを見られるわけですよ。だから、やっぱりそういうところを今後こんなフラッグツアーってないけれども、そういう徹底をしていただきたいと思うし、私が取り組んでいる熊本市のごく地域ですよ、熊本市にあずかって、フラッグを見に来る層というのは割と結構お年寄りが多くて、小中高校生なんて少ないんですね。だから、やっぱりそういう機運を上げられないというところに、それは体育保健課もそうですよ、教育委員会も。僕は言ったでしょう、いろいろ。いろんなところはラグビーでも取り組んでくれるということで。だから今回溝口君が言われたように、一生懸命みんなでやったから成功した。ただ、機運の取り組みが下手なんですよ、そうやって。後からみんな、ああ、フラッグツアーが来たと、それで見に行きたいというけれども、こっちはない。で、山鹿に行かなん、どこか違うところに行かなんというようになってしまうんですね。だから、そういうので熊本市の教育委員会あたりと県の教育委員会が連携して、局長あたりに、こうやって学校に来ているから子どもたちに感動を与えるためにフラッグを見るのはどうかという話はされたんですか。

○西村体育保健課長 直接はやっておりませ

ん。

○荒木章博委員 だから、ただその場所に来て、西区役所なら西区役所、北区の区役所には来ているだけで、通りすがりの人たちが見たということなんです。これがね、スポーツと感動を与えられないんですよ。だから私が知っている小学校には、校長先生に頼んで、こういうのを子どもたちに見せてくださいよと言って、何か見に行ったらいいです、クラスによっては先生が行きなさいと。だから、そういう機運が、「あっ、これがオリンピックだ」と。今後、自分たちも将来の夢として、やっぱり自分の先輩たちが出られるんなら、野球でもソフトでも、そういうのが出られるんだという認識がやっぱりスポーツ競技会の中でもあるわけですよ。

じゃ、スポーツ競技会にそういうのがあるというのは、競技団体にこういうのがあるということは通知されたですか。スポーツ団体にも言われましたか、学校には言ってないということだから。

○西村体育保健課長 スポーツ推進協議会とかで、いろんな会議の場で私のほうからいろんな周知またお願い等も含めて、挨拶の中で話したりもしてはまいりました。

○荒木章博委員 じゃ、ペーパーは渡されました。

○西村体育保健課長 いや、渡しておりません。

○荒木章博委員 課長が言われて、何月何日にどこですよというのを言わないと、フラッグツアーが来てますよと言ってですよ、フラッグツアーが来てますよと言って、どこどこにどれがあるというのはわかるはずがないじゃないですか。それは誰でも聞いたままです

よ。だから、ローテーションは決まっておるでしょう、こうやって。何月何日はどこからどこの地域、どこの地域、どこの地域と決まっているでしょう。せっかくフラッグが来て子どもたちに感動を与えて、被災地に熊本県が、知事が用命したから熊本県が東京以外で初めて来たんじゃないですか。

だから、そういうね、そういうところがただ、例えばラグビーの券を買わなきゃいかぬ、そうすると、もうテストマッチだからどうだからといって、日本チームが来るかといって、みんなで力を合わせてやる。だから一つ一つスポーツ振興には、私は言ったじゃないですか、あなたにも。スポーツ振興にはそういうみんなの思いがやっぱ重なって、ムードが盛り上がっていくんですよ、熊本県が。だから今、実際ハンドボールが来るんだ、ラグビーが来るんだ、オリンピックのキャンプを取るんだ、そういった中でやっぱやらなければいかぬですよ、僕は。部長どうですか、総合的にやっぱ連携はされてますか、教育委員会あたりと。

だから、ただ来ますから、フラッグが来ますから見に行ってくださいじゃ、それじゃ誰がどう、いつ来るかもわからない。新聞にも載らないですよ、何月何日どこというのを。県が広報するわけでもない。だから、お年寄りの人たちが意外と「あー、これはオリンピックばい」。私は、子どもたちに見てほしかったですよ、こういうのは。だからスポーツ振興は伸びらないじゃないですか。どうでしょうか。最後に締めてもらわな、部長に。

○奥菌商工観光労働部長 本当にいいスポーツというのが非常に万人の方に夢と希望を与えるという力があるんだと、今回のテストマッチもそう思いました。

やはり、どう話題を取っていくかということで、例えばフラッグツアーが来ると、それを生かして次に生かすというような戦略性が

少し足りなかったかなというふうに、率直に思います。

何が皆さんの関心事になるかとかいうのが見えない部分がありまして、フラッグツアーにつきましても、ありがたいことに、まあ突然と言っては悪いんですけども、かなり意外性の中でいただきました企画でございますので、そういったものを、より効果的に使っていくと言いましょか、利用して皆さんの機運を盛り上げていくというのが確かに必要だなと思いますので、今後とも連携をとらせていただきながらやらせていただきたいなというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

○荒木章博委員 ぜび、市町村初め教育委員会やら体育保健課は一生懸命やられよとですよ。休みの日にも組み立てをされたり、担当の人たちなんかもうかわいそうですよ、本当にもう。そして市町村の人たちが次の場所は取りに行くと。それはいいんですよ。ただ、やっぱりせっかく、私は熊本市ですから熊本市の人たちがお年寄りたちが多かった。子どもたちなんか隣にその場所があるのに見にも行かない。何月何日からあっているのもわからない。何時から何時まであって、行ったらもう4時には閉まっとった。だから、そういうやっぱりその思いというものを、スポーツ振興の思いというのを盛り上げていくのが国際スポーツの委員会じゃないかと思うんですよ。それにはやっぱり原動力は、やっぱり部長が、商工観光労働部長が先頭を切って、各省庁やら熊本市やら市町村の教育委員会に頼まれて、こういうのがあるから子どもたちにと。見る時間というのは、正直言って5分もかからないんですよ、写真撮って行くぐらいですから。せっかく知事も努力をされて、今日までフラッグを持ってこられたんだから、岩下議長にもパラリンピック旗を渡されて、県議会議長として受け取られてやってい

るんだから、そこんところはちょっと悲しいんですよ。

引き続き。まあフラッグはもう来ませんから、そういう一つ一つでやっぱ盛り上げていきましょうよ。ラグビーの試合でもハンドボールでも、余り有名でないチームが来て、みんなで子どもたちが、やっぱスポーツなんだということをお願いしたいと思います。

次にもう1点、今質問なんですけど、この18ページにオリンピックキャンプ地の誘致ということで、誘致の予算が上限額が50万から100万に上がった。これはもう、100万でも僕は少ない。キャンプ実際に来てくれるならば、そういう地域の触れ合いとか。だから、これにはもちろん補助金、誘致をやるからには、やっぱそういう地域とのですよ、例えば山鹿でやるとか益城でやるとか、そういう子どもたちとの触れ合いのことも入れた増額予算ですかね。

○水谷首席審議員兼国際スポーツ大会推進課長 18ページの下のその他のところですけども、今回、誘致段階の上限額を50万円から100万円に増額するというのは、市町村の方が誘致活動をされる際の活動経費、これを50万円から100万円に増加するというものと、あと、これまでは国内の移動経費だけを対象にしていたんですけども、海外に行かれる際もその対象にするという2点の改正を行いました。

今、荒木委員おっしゃった、実際来られて地元とのいろんな交流をしていただく、その際に一定額を補助するという、それは去年から同じようにやっておりまして、そこは変わっておりません。

○荒木章博委員 じゃあ、100万プラス、100万の中でやるということですか。

○水谷首席審議員兼国際スポーツ大会推進課

長 ちょっと二本立てになっていまして、今回改正したのは誘致活動をするための経費についての改正です。

二本立てのうちのもう一本で、実際に来られます。昨年、日本の女子レスリングのチームが来られました。参加者1人当たり5,000円という補助を出します。その上限も100万円なんですけれども、その受け入れる際に補助金を出す条件として、地元の方との交流、例えばレスリング教室を地元の子どもとやってもらうとか、そういったことはやってくださいねという条件にしますので、今回の改正はそれとは別に、実際誘致活動される際に、より使いやすくしていただくための改正ということでございます。

○荒木章博委員 なら200万ということですかね。100万、100万ということですか。100万、50万ということですか。

○水谷首席審議員兼国際スポーツ大会推進課長 活動が別になれば、それぞれ対象にはなりません。

○荒木章博委員 100万、100万、最高限度額は100万、100万と認識していいわけですね。だから、これをもう一つのほうを50万から100万に上げたということですね。そこがちょっと説明なかったものだから、尋ねた。

それで、それに関するところで、やっぱり剣道の世界大会が再来年だったかな、3年に1回ですから、日本で開催される。実際今、日本と韓国が競り合っているんですけども、韓国チームが熊本でキャンプしようということで、県からの助成はゼロなんですよ、はっきり言ってですね。熊本市の助成で、まあ二、三十万か知らぬけれども、幾らか予算は宿泊、一日何日で最高限度額は決まっているんですよ。県の補助対象はないんですよ。

だから、やっぱり国際スポーツの、オリンピ

ックだけではなくて、やっぱり国際スポーツですからそういう多くのキャンプ誘致すること。だから私も九州学院の高校生を連れてイギリス、フランス代表チームと、私が団長で試合、ナショナルチームと試合。非常に役に立つんですよ、はっきり言って。それで、もちろん向こうから来る、そしてキャンプをして稽古会をする。だから県警本部とかの道場を借りたりとか、県警本部の選手と試合をやったり、武道館で熊本県の、そうすると宮崎県警、長崎県警、九州の各県のエースたちが5人ずつ集まって熊本で宿泊して韓国と試合をするんですよ。

そういったことも、今、韓国の李会長がこの前、地震の、熊本であったとき、そういうお世話になったからということで熊本県に100万義援金を出されたんです、みんなから集めて。熊本県がやったつよりも向こうのほう、熊本県は何もやらぬけれども、向こうのほうがお金を出すわけですよ。九州各県そして神奈川県警、警視庁からも要するに世界チャンピオンのメンバーが全部熊本で稽古会をするんですよ。そして、もちろんここに宿泊するんですよ、全員が。

だから、そういうやっぱり国際スポーツの向上というのには非常に僕は役立っていくと思うんですよ。そういうところで熊本県の高校生のトップたちと試合をする。もうしこたまやられちゃう、世界のチームには。それが経験になって一つの修練を積んでいくんですよ、はっきり言ってですね。

だから、やっぱりぜひそういうところも、今答えられない問題かもしれぬけれども、やっぱり国際スポーツとしてそういう世界の大会が日本で開催される。今度は韓国で開催されます。要するに、その子どもたちがオリンピック競技に入っていないけれども、剣道というのはオリンピックに入らないというのが全剣連の姿勢ですから、世界大会でやる。それが最高の大会ですから。そして熊本県の選手

たちが、7名の中の、合計10名の中の5人ぐらい熊本県出身ですよ。もちろん熊本県警の方も入っておられます。だから、そういうところも含めて、国際スポーツという理解のもとに、100万というのは100万も要らぬですよ。しかし少しは何か協力できるようなキャンプにして、誘致にして、やっばお願いして、そして被災のときは100万持ってきてくれたんですよ、はっきり言って。それは振り込みですから、新聞・テレビには何も出なかったんです。やっばそういう姿勢を示されているから、ぜひ。部長いかがでしょうか、今の御意見に返答ぐらいしていただければいいでしょうか。

○奥菌商工観光労働部長 この国際スポーツの取り組みを通じて、レガシーということで、今後どういうものを残していくかということでございますので、委員がおっしゃったようなところも一つのレガシーの検討材料にはなるかと思っておりますので、少し検討させていただければと思います。

○池田和貴委員長 ほかにございませんか。はい水谷課長。

○水谷首席審議員兼国際スポーツ大会推進課長 先ほど説明の中でちょっと漏れていたかもしれませんので。

今回のキャンプ誘致の事業は、市町村また競技団体が誘致活動をされる、主体としてされる際に、県が一部補助しますという形なものですから、県が直接その競技団体とか外国のチームに渡す、そういう仕組みではございません。市町村・競技団体等が誘致活動を行う、それを県が支援するという形になっておりますので。

○荒木章博委員 それが100万で、県のほうの助成が100万あるということでしょう。

○水谷首席審議員兼国際スポーツ大会推進課長 そうです。

○荒木章博委員 ですね。だから今度のやつは県がその100万と違って、誘致の各市町村に対して助成するということでしょう。

○水谷首席審議員兼国際スポーツ大会推進課長 どちらも市町村に。

○荒木章博委員 誘致するということ。はい、わかりました。

○池田和貴委員長 ほかにございませんか。なければ、次に共通する事項について質疑はありませんか。

○松田三郎委員 最後のページ、説明28ページの組織図を見て、この両大会も、ラグビーなんか3試合でも期間が長いので、その間、本国から応援に来られた方々も、ぜひ熊本県内を観光してもらいたいとか、場合によっては福岡、大分、オール九州でこういう方をとてなす。

また、溝口先生御指摘のように、仮に余りなじみのないチームは、マッチメイクになったときでも、できるだけ来た人に観光のほうで何とかもうけられれば、実を取れるかな。

そこで、このカードの中の広報誘客課か、きょう国際課、観光物産課もお見えですので、ここからどこか入っているのか、もしくはそうじゃなくて通常の同じ商工の部内だから、きちっと連携をとりながら国際課の仕事もあるいは観光物産課もやるのか。いや、これとは全く別に普段からやっておりますという、どうかかわり具合なのかというのを。

○水谷首席審議員兼国際スポーツ大会推進課



長 28ページにお示しします組織図というのは、県と熊本市を中心として2つの国際大会を、またオリンピックキャンプ誘致ですね、それを実施するために特別に事務局をつくっております。その中の体制でございます。ですので、通常の県がやっております国際課とか観光の仕事というのは、それぞれの観光物産課、国際課がやっているということで、当然連携はとっておりますけれども、それぞれやっていくという仕切りでございます。

○松田三郎委員 はい、わかりました。

じゃあ、せっかくお見えですので、例えば観光物産課長の意気込みなどを。

○永友観光物産課長 2019年に向けて観光物産課としましても、今いろいろと政策展開を考えておりまして、インバウンドは今国際課のほうでやっていますけど、大きくは2019年の7月から9月に、JRとタイアップした destinations キャンペーン、国内最大級のキャンペーンをやります。それに向けて、今、阿蘇と熊本城が被災していますので、そこを見せる部分と、それ以外の各地域をいかに底上げしていくかというところで今現在取り組みを進めておりますので、そこでしっかりと磨き上げをして、2019年にお客さんいっぱい来ていただけるように取り組んでまいりたいというふうに考えております。

○小金丸国際課長 併せまして、国際課です。

国際課のほうでは、4月から海外インバウンドの担当をさせていただいております。国際課におきましては、ラグビーのワールドカップに関しましては、開催地であります福岡県それから大分県と連携する中で、九州観光推進機構も入りまして、昨日第1回目のそういった誘客関係、いろいろ観光エクササイズの方の会議が、実務レベルの会議が行われて

おります。そういったことでキックオフが始まっておりますので、しっかりと、ほかの大会も含めまして関係課と連携して取り組んでまいりたいと思っております。

○松田三郎委員 はい、いいです。

○池田和貴委員長 よろしいですか。ほかにございせんか。

○溝口幸治委員 済みません。

さっき、ちょっと執行部からふれていただきましたけど、先般行われた九州議長会で熊本県からの提案ということで、大分、福岡とも連携しながら国際スポーツ大会を2019それから2020をしっかりと九州全体で取り組んでいこうということを議題として出ささせていただいております。

それから、これ西先生も淵上先生も一緒ですけれども、九州未来創造会議、これ来年度のテーマをぜひこの国際スポーツ2019、20年に絞って、九州としてどう連携をしていくかということ、ぜひ議題として取り上げていただきたいということを提案するようしておりますので、委員の皆さん方にはそれをお知らせしておきます。

執行部に、今熊本県の取り組みはわかるんですけれども、やっぱり海外から来る人は九州全体とか日本を見て来るので、ぜひそのあたりの九州全体との連携を、今もやられているのかもしれませんが、具体的に2019というのはいまもう日にちが迫ってきましたので、そのあたりどうやるのかというのをしっかりと検討しておいてほしいというふうに思います。

以上です。

○池田和貴委員長 ほかにございせんか。

なければ、ちょっと1点。済みません県警の方にお伺いしたいんですけど、今回2019と2020かなり外国のお客様が来られると思うん

ですね。特にラグビーはマッチメイキングによって変わってくると思うんですけど、やっぱり警備とかの関係上、多言語化といいますか、警備側とかもうやっぱり言葉の問題って出てくると思うんですけど、その辺については何か対策か何かは考えていらっしゃるでしょうか。

○森本警備第二課長 警備第二課長の森本です。

現在2019とか2020の前に、熊本県内においても来日外国人による犯罪とかが発生している状況でありますので、その者を調べる際には、やっぱり言語が、その国の言葉が必要となってきました。

ですから県警におきましては、通訳ができるように英語、中国語、ロシア語とかそういったものをしゃべることができる人間を育成し、現在もうそうやってしゃべる者も実際おります。

それで、今、御指摘のとおり2019のラグビーの関係とか2020のオリ・パラにつきましても、やっぱり多数の国から日本を訪問されますので、それに対応できるように、やっぱり語学ができる者を、これ以上にふやしていかなければならないのではないかなと考えます。

ただし、それで自分で勉強して、お金もかけずにしてくれるのが一番いいんでしょうけど、しかし、やっぱり予算が必要となってきます。現在も県費等で、たしか海外に研修に行かせてもらっているところがあると思いますので、そういった制度のまた拡充じゃないんですけど、それをしていただければ、また国際感覚を持った警察官というのを育成できますし、それがまた19とか20のときに活躍してくれるのではないかなと考えております。

以上です。

○池田和貴委員長 わかりました。ありがと

うございました。

準備には時間かかると思うんですね。頑張ってください。

ほかにございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○池田和貴委員長 なければ、質疑はこれで終了したいと思います。

次に、閉会中の継続審査についてお諮りします。

本委員会に付託の調査事件については、審査未了のため次期定例会まで本委員会を存続し審査する旨、議長に申し出ることとしてよろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○池田和貴委員長 異議なしと認め、そのようにいたします。

次にその他に入りますが、何かございませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○池田和貴委員長 ありませんか。なければ、これをもちまして本日の委員会を閉会をいたします。お疲れさまでございました。

午前11時34分閉会

熊本県議会委員会条例第29条の規定によりここに署名する

国際スポーツ大会推進特別委員会委員長